

第8回コンクリート技術研修会

日時：2017年9月29日(金)13:00～17:00

場所：サンピアセリーズ 高知市高須砂地 155

主催：高知県コンクリート診断士会

共催：(公社)日本コンクリート工学会 四国支部・(公社)高知県土木施工管理技士会

申込み者：229名（官公庁54、一般145、会員30）

参加者：196名（官公庁40、一般125、会員31）（女性4名含む）



挨拶：原田 隆敏

高知県コンクリート診断士会会長

関係各位また講師陣のご協力により、第8回の研修会を開催することができております。コンクリート構造物の品質確保、補修補強事例並びに生産性向上を主眼に第一線で活躍されている講師陣を招いております。講習会で得られた情報を各参加者の実務にお役に立ててもらえれば幸いです。



【講演Ⅰ】『公共工事の生産性向上について(i-construction)』

門田 隆志

国土交通省四国地方整備局 企画部総括技術検査官

我が国において生産年齢人口が減少することが予想されている。国土交通省では現場環境の改善、生産性向上を目的とした i-construction を立ち上げた。

規格の標準化と適用範囲を明確化することによりコンクリート工ではスランプの上限値を8cmから12cmとすることで生産性が20%向上するなど事例が挙げられた。



【講演Ⅱ】『経年コンクリートの補修・補強について』

濱渦 康博

栄宝生建設(株) 高知県コンクリート診断士会会員

コンクリート構造物の補修・補強を行う際に留意しなければならない点を挙げ、補修材の選定では耐候性に考慮する、断面修復を実施する際は応力計算を行うことが重要、劣化のメカニズムを把握し再劣化を防止するなど、具体的事例を用いた講演であった。



【講演Ⅲ】『コンクリート構造物の品質確保の意義—ひび割れ抑制、長寿命の達成、人財育成—』

細田 暁

横浜国立大学大学院 都市イノベーション研究院
准教授 博士(工学)

品質確保は山口県を始まりとして東北地整、群馬県などに波及している。「何のなめに、やるのか？」が重要である。先行している県はそれぞれに本質的な問題点を洗い出し、チェックシートを作成するなど品質確保に関してPDCAを回すことで効果を上げている。今後導入する際は問題点を把握し適格なアクションを起こすことが重要、そのためには優れた人財を育てることが品質向上につながる。



閉会挨拶：島 弘

高知工科大学 教授

高知県コンクリート診断士会技術顧問

当研修会も8回目を迎えることが出来ました。これも関係者各位の協力のおかげです。来年度、高知県コンクリート診断士会は設立10周年を迎え、記念講習会を高知工科大学で開催予定です。強力な講師陣を迎えるべく準備を進めていますので、今後ともどうぞよろしくお願い申し上げます。

会場写真

